平成 28 年度熊本県訪問看護ステーション従事者研修会報告書

平成 28 年 11 月 20 日

担当：熊本市南区・東区訪問看護ステーション

（1）概要

日　時	平成 28 年 11 月 12 日（土）10 時～12 時	場所	シアーズホーム夢ホール　大会議室
テーマ	災害経験を生かした新たな備えを考える　―過去の災害に学ぶー		
講　師	神戸常磐大学　保健科学部看護学科　教授　畑　吉節未		
目　的	4 月の熊本地震を体験した今、訪問看護ステーションは災害時何が求められ、何ができるのかを、訪問看護に従事する一人一人が考える時間を持つ。		
参加者	91 名（看護師 75 名、准看護師 3 名、ＰＴ／ＯＴ4 名、事務 1 名、学生 6 名、教務 1 名）		

（2）報告事項

研修内容
1．看護の原点は災害看護にある：人は心に「刻印」された記憶は忘れない。人々の経験の中に自己を投入し相手の気持ちを「感じる」能力が必要。 2．災害とは何か：阪神淡路、中越、東北、福知山脱線事故、台風 23 号（豊岡）、台風 9 号（佐用町）の災害から看護師の役割、他者から見た看護師、対象者並びに支援者の心のケアの重要性。 3．今一度考えたいこと：マニュアルの効用と限界・・・想定外を想定する ・訪問看護師はなぜ派遣看護師で代用できないか・・・訪問看護師は「生活（家庭の文化）」の中に入っていくため、その生活（文化）を同じように捉えるのに時間がかかるから・・本当にそうなのか ・私たちが捉える生活とは何か ・ナイチンゲールが捉えた在宅看護「病院は文明の中間段階に過ぎない。看護の最終目標は、病人を彼ら自身の家庭で看護すること」 4．熊本地震から何を学ぶか：看護実践行動を強化する力とは、計画力、想像力、倫理力、対話力・診断力、多様性を認め活かす力＋α在宅特有の課題 5．日々の備え：災害時訪問看護師は駆けつけられないことを前提に、療養者自身が地域に自己開示する。多様な場面を想定し日々訓練しておくことが必要。

備考（研修会実施までの取り組み）		
8~9 月	テーマ決め	南区、東区★印さんを中心に FAX でのやりとりでテーマを募集・絞り込み
9.14	会場申し込み	熊本県医師会事務局（新名氏より）
9.28	講師依頼	熊本県医師会事務局（新名氏より）
10.13	南・東合同会議	役割分担、当日の運営について
		レジュメ、役割分担表、当日のスケジュール作成（各担当者）

11.4	会場下見	下見可能な管理者 5 名で会場確認、担当者と打ち合わせ
11.9		講師より届いた資料、配布物（レジュメ、アンケート）垂れ幕、領収書等を 事務局（新名氏）より受け取る。